

第13回テーマ

求められるのは「強烈なリーダーシップ」

「若い人の働く場所がない」...とあるクライアント先のオーナーと話していた時の事だった。もう数十年来のお付き合いだが、これほどまで「政局」や「社会情勢」について興味を持って話をした事はない。多くのお客様と話をしたが、どの方も景気の話から政局の動き・政策を食い入るように観察するようになっている。これは、それだけこの不況に対する「閉塞感」と「強烈な危機感」からくるものだろう。

話を戻すが、若年層の雇用状況が良くない事は高齢化社会の進展と同時に重要な問題である。日本全体の「成長シナリオ」が見えないという事や、企業の経営計画のように「日本全体の目標」がない...あるいはあっても今は到達イメージが持てない状況で、短期的視点でばかり論議が進んでいるように思える。むしろ政治も社会も「浮足立っている」所があるのではないのだろうか？今こそ、多少のリスクを内在化する政策であっても、強烈なリーダーシップで「決断」していく勇氣が必要だと思う。

個人的には「規制緩和」だ。多くの市場に競争力を持たせ、付加価値の高い商品・サービスを生みだせる土壌が生まれる。もちろん、起業やビジネスチャンス、雇用の受け皿としての産業育成という流れでつながっていくだろう。無論、デメリットも大きく、価格変動や商品・サービスの安定供給など色々な問題点も出てくるが、まずは働く「場所作り」の前に「仕事に対する意欲喚起」の方が先だ。夢が持てないなら「夢を持てるステージ」を作れば良い。

郵政問題から端を発して「公から民へ」と流れが移っている中、業種・業態にもよるが、もっと「市場開放」が進んでも良いはずだ。バブル後に「ITバブル」の時代に突入したが、ここでも多くの若者の雇用環境を生んだ歴史がある。バブルまでとはいかないにしても、過去の失敗から参入ルールを定め、公平性・平等性を全面に打ち出した政策が求められる。

企業でも全く同じで、人事異動や新ビジネス等、会社のルールも「市場開放」する事が求められている。「仕事に対する意識や意欲」を上げていく事が一番の現状の課題と思う。